

日本教育方法学会

第43回大会プログラム

《大会日程》

第 一 日 9月29日・土	8 : 30	受 付 開 始										
	9 : 30	課 題 研 究 I 世界における日本の授業研究の意義と課題 ―校内研修としての授業研究を中心にして―					課 題 研 究 II 保幼・小接続の現状と課題					
	11 : 30											
	11 : 40											
	12 : 30	総 会										
	13 : 30	休 憩										
		自由 研究 1	自由 研究 2	自由 研究 3	自由 研究 4	自由 研究 5	自由 研究 6	自由 研究 7	自由 研究 8	自由 研究 9	自由 研究 10	自由 研究 11
	15 : 40											
	15 : 50	公 開 シ ン ポ ジ ウ ム PISA 型読解力を検討する										
	18 : 20											
	18 : 30											
	20 : 00	会 員 懇 親 会										

第 二 日 9月30日・日	8 : 30	受 付 開 始											
	9 : 15	自由 研究 12	自由 研究 13	自由 研究 14	自由 研究 15	自由 研究 16	自由 研究 17	自由 研究 18	自由 研究 19	自由 研究 20	自由 研究 21	自由 研究 22	自由 研究 23
	11 : 55												
	13 : 00	休 憩											
		課 題 研 究 Ⅲ 学習集団と生活集団を問い直す						課 題 研 究 Ⅳ 教育方法学の立場から「いじめ」問題と どう取り組むか					
	15 : 00												
	15 : 20												
		ラウンドテーブル						ワークショップ					
	16 : 50												

2007年9月29日(土)・9月30日(日)

於 京都大学 (吉田キャンパス)

協賛 京都大学高等教育研究開発推進センター

大会参加要領

1. 会場案内：会場は、京都大学（吉田キャンパス）です。会場への経路につきましては、次頁をご参照ください。

2. 受付：両日ともに8：30からとなります。

受付は吉田南総合館（北棟）1階 Bell Loungeで行います。

- ・大会参加費（発表要旨集録代を含む）は、一般会員4,000円、学生会員3,000円です。
- ・当日会員（臨時会員）もこれに準じて受け付けております。
- ・本年度までの学会費（一般会員8,000円、学生会員6,000円）を未納の方は、あわせてお納めください。
- ・本年度の学会費を納入された方には、受付にて『教育方法36』をお渡しします。
- ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ふるってご参加ください。会費は4,000円となっております。詳しくは、15頁の「インフォメーション」をごらんください。
- ・受付にてネームプレートを用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。

3. 昼食：土日ですが、学内の食堂及び吉田南総合館（北棟）地下ローソンが営業しておりますので、ご利用下さい。東一条通、または百万遍近辺にも飲食店があります。

（営業時間 カンフォーラ：第1日(土)・第2日(日)とも11：00～15：00
カフェテリア・ルネ：第1日(土)11:00～20:00 第2日(日)11:00～14:00
ラ・トゥール：第1日(土)・第2日(日)とも11：00～22：00

4. 研究発表：発表会場につきましては、4・5頁の「会場配置図」をごらんください。

- ・自由研究の発表時間は、以下の通りです。

個人研究：発表20分 質疑10分

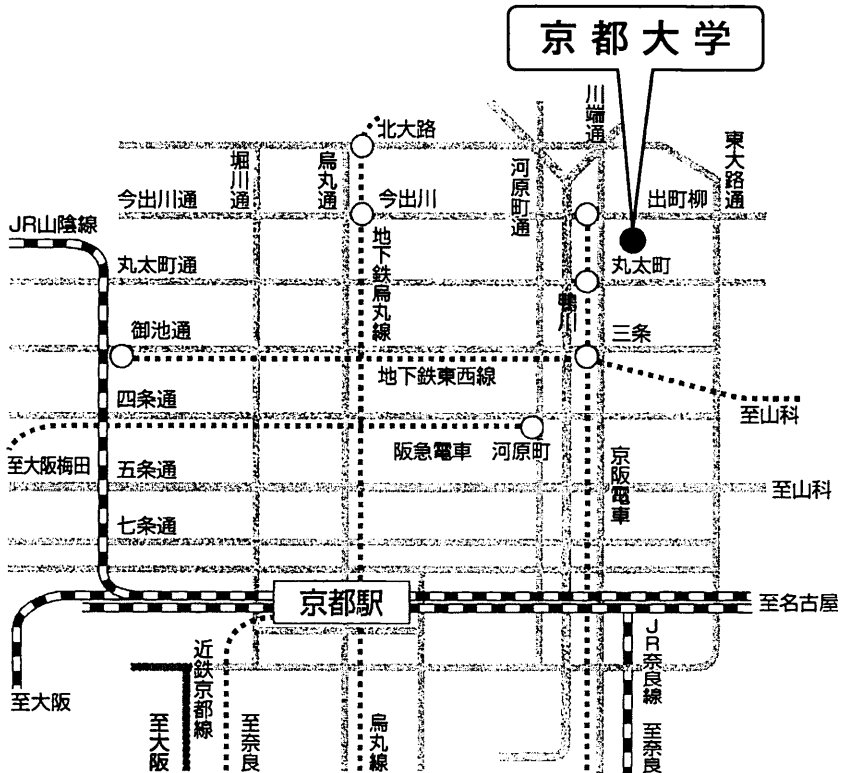
共同研究：発表30分 質疑10分

（但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。）

- ・自由研究における共同研究発表者の氏名にある○印は口頭発表者を表しています。

※大会に関するお問い合わせは、前々日27日までに学会事務局（TEL/FAX：082-424-6744）にお願いいたします。

〈京都大学・吉田キャンパス案内図〉



京都大学（吉田キャンパス）への交通手段については、下記をご参照ください。ただし、バスについては、交通事情により大幅に遅れる場合がありますので、ご注意ください。「JR・近鉄 京都駅」より来られる場合、一番確実なのは、地下鉄烏丸線で今出川駅まで行っていただき、そこから市バス又はタクシーに乗り継いでいただくルートです。

◎ JR・近鉄 京都駅より

- 地下鉄烏丸線「国際会館」行「今出川駅」下車（出口3番）、タクシー又は市バス201系統「百万遍・祇園」行乗り換え「京大正門前」下車。所要時間 約35分。
- 市バス206系統「東山通北大路バスターミナル」行「京大正門前」下車。所要時間 約40分。
- タクシー 所要時間 約25分。

◎地下鉄烏丸線 今出川駅（出口3番）より

- 市バス201系統「百万遍・祇園」行「京大正門前」下車。所要時間 約15分。
- タクシー 所要時間 約10分。

◎阪急 河原町駅（出口6番）より

- 市バス31系統「東山通 高野・岩倉」行「京大正門前」下車。所要時間 約25分。
- 市バス201系統「祇園・百万遍」行「京大正門前」下車。所要時間 約25分。
- タクシー 所要時間 約15分。

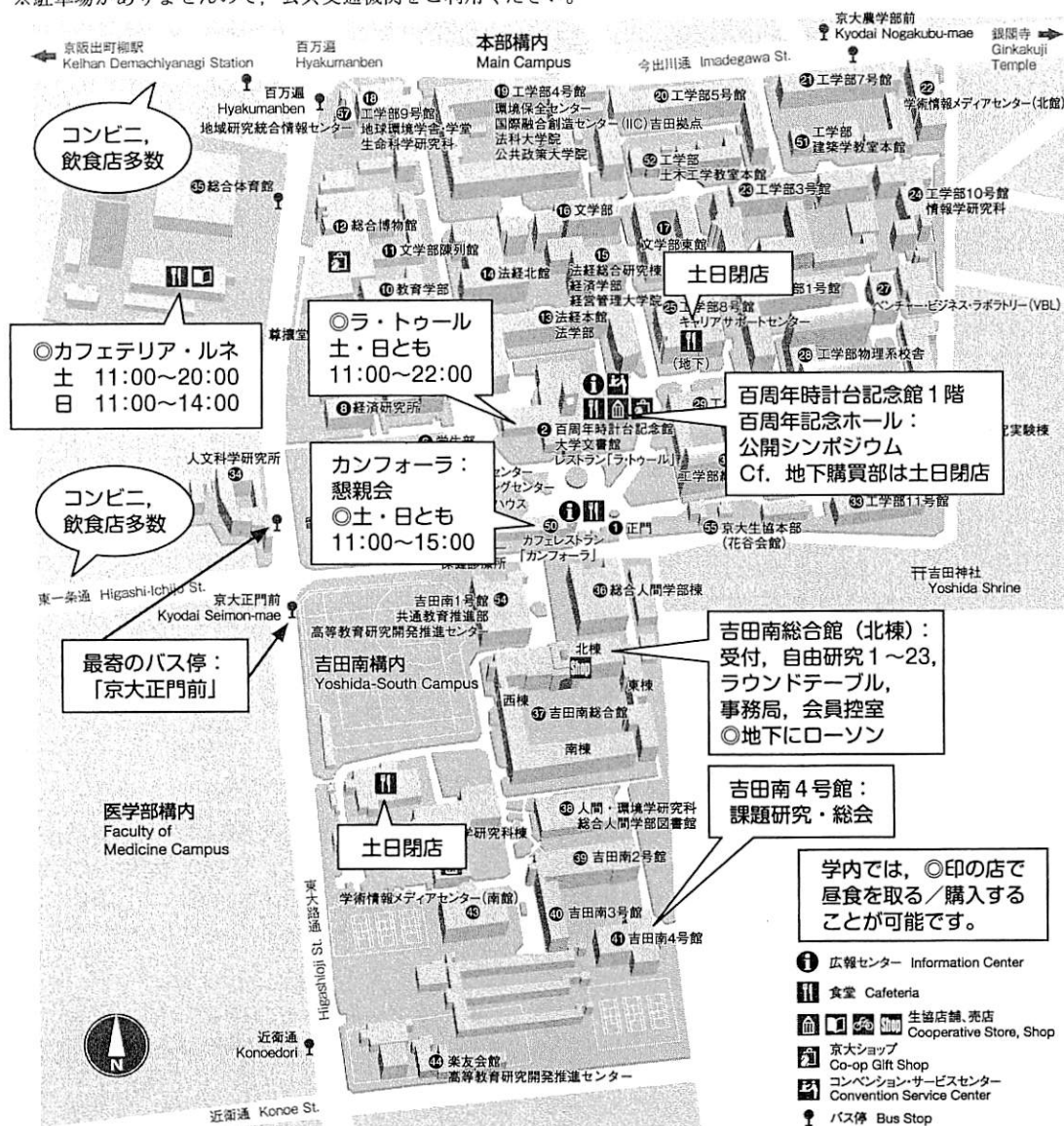
◎京阪 出町柳駅（出口4番）より

- 市バス201系統「祇園・みぶ」行「京大正門前」下車。所要時間 約5分。
- タクシー 所要時間 約5分。

〈会場配置図〉

※京都大学ホームページ（<http://www.kyoto-u.ac.jp/top2/07-top.htm>）もご参照ください。

※駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。



会場配置 ※4共…吉田南4号館 共北…吉田南総合館（北棟）

総会 : 4共11
 課題研究Ⅰ・Ⅲ : 4共11
 課題研究Ⅱ・Ⅳ : 4共21
 公開シンポジウム : 百周年時計台記念館1階
 自由研究1・12 : 共北11
 自由研究2・13 : 共北12
 自由研究3・14 : 共北25
 自由研究4・15 : 共北26
 自由研究5・16 : 共北31
 自由研究6・17 : 共北32
 自由研究7・18 : 共北33
 自由研究8・19 : 共北34

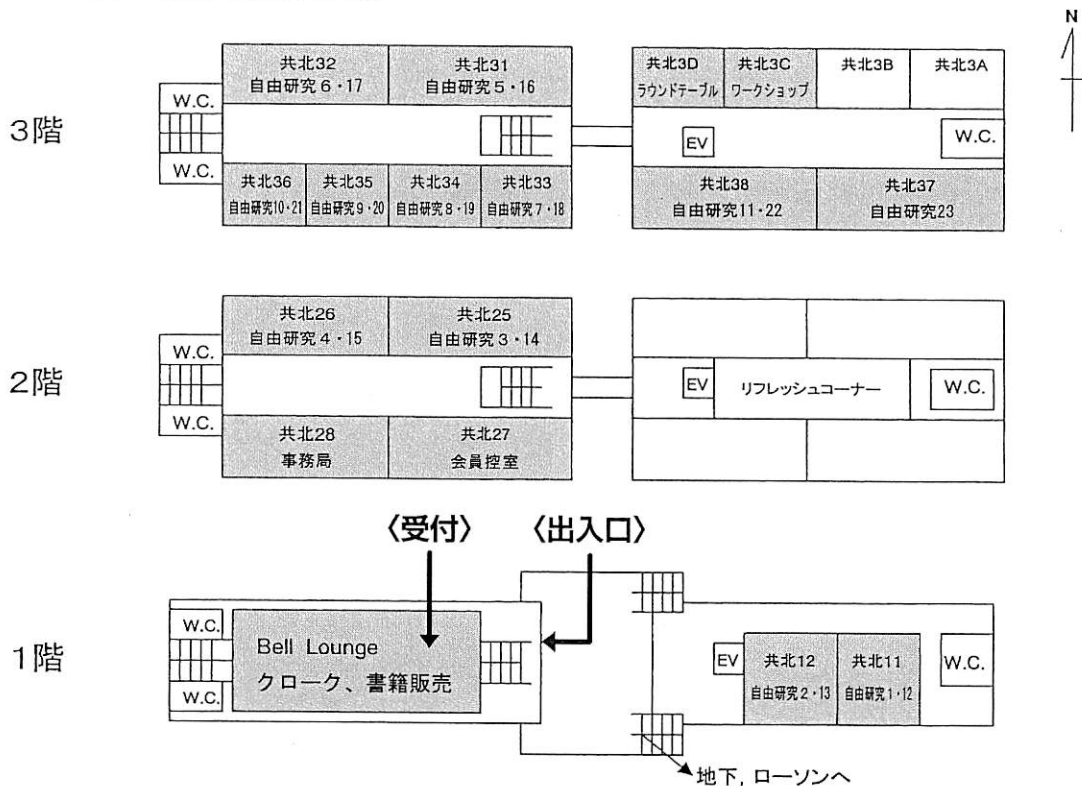
自由研究9・20 : 共北35
 自由研究10・21 : 共北36
 自由研究11・22 : 共北38
 自由研究23 : 共北37
 ラウンドテーブル : 共北3D
 ワークショップ : 共北3C

会員控室 : 共北27
 事務局 : 共北28
 クローク : Bell Lounge

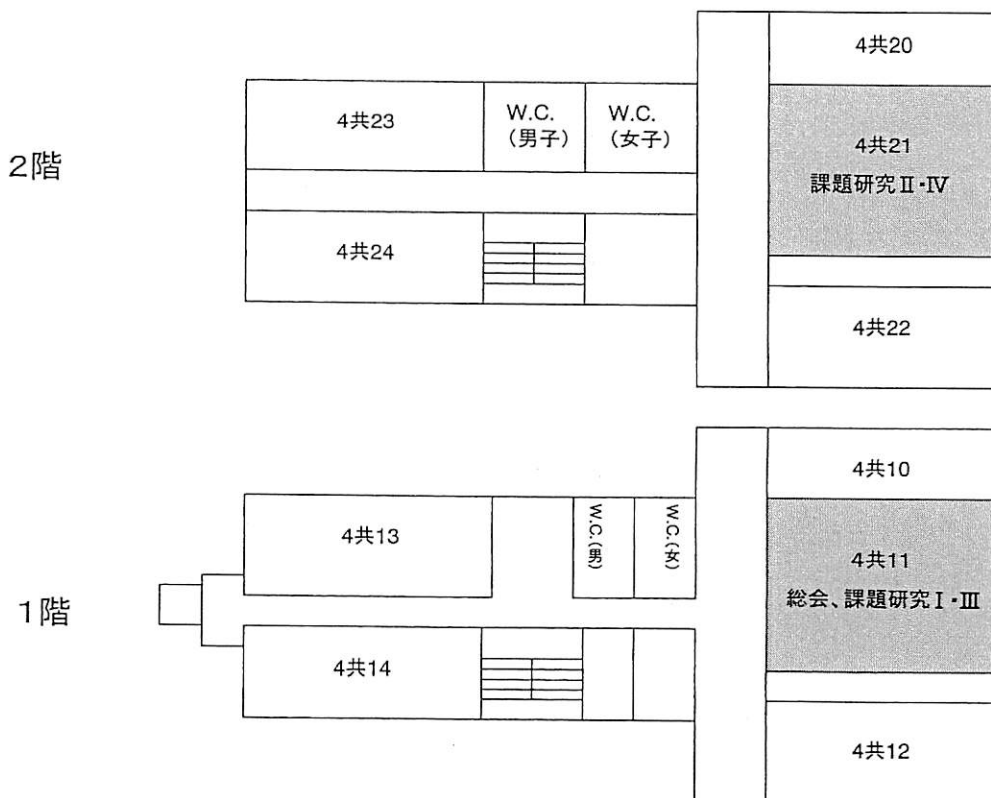
※会員懇親会はカンフォーラで開催いたします。

〈教室 配置 図〉

吉田南総合館(北棟)



吉田南4号館



9月29日(土) 9 : 30 ~ 11 : 30

課題研究 I

世界における日本の授業研究の意義と課題
— 校内研修としての授業研究を中心にして —

(4共11)

コーディネーター

市川 博(帝京大学)
的場 正美(名古屋大学)

司会者

市川 博(帝京大学)
河原 尚武(鹿児島大学)

提案者

木原 俊行(大阪教育大学) 校内研修による反省的授業実践文化の創造
— 授業研究の継続・発展を促す「装置」への注目 — ……27
小林 宏己(東京学芸大学) 授業研究における教師の自律性と専門性の構築 ……29
的場 正美(名古屋大学) 授業研究の持続と発展のための授業分析の課題 ……31

〈設定趣旨〉

日本の授業研究は、アメリカ、カナダ、中国、シンガポール、イランなどの諸国では、Lesson Study として受容され、それぞれの国で独自に展開されている。現在の日本の授業研究は、世界の授業研究において、どのような意義と課題を有するのだろうか。本課題研究においては、校内研修を討論の中心にして、日本の授業研究の意義と課題を明らかにしたい。

校内研修としての授業研究は、教師たちによる授業過程の事例研究であり、多くの場合、単元・授業計画、研究授業の実施と観察、事後検討会、授業改善というサイクルで実施される。このような授業研究を支えている基盤、授業研究をとおして開発されてきた道具、同僚との経験の共有など、日本の授業研究の有している特徴と意義を現代の学校を取り巻く状況と研究状況において問い直し、授業研究の課題を明らかにしたい。

9月29日(土) 9:30~11:30

課題研究Ⅱ

保幼・小接続の現状と課題

(4共21)

コーディネーター・司会者

天 野 正 輝 (龍 谷 大 学)

上 野 ひろ美 (奈 良 教 育 大 学)

提案者

渡 邊 保 博 (静 岡 大 学) 乳幼児の養護問題からみた接続期の保育・教育の課題 …32

奥 野 隆 一 (鳥 取 大 学) 幼児の発達から見た幼・小の接続の課題 ……………34

鳥 光 美緒子 (中 央 大 学) 幼年期カリキュラムの構想化の現状と課題

—政策課題としての接続・連携を越えて— ……36

指定討論者

八 木 英 二 (滋 賀 県 立 大 学)

〈設定趣旨〉

保育所・幼稚園での実践と小学校教育とを、カリキュラムと指導方法の工夫などによって、両者のスムーズな接続を図ろうとする試みが急速に拡まっている。文科省の研究開発学校の新しいテーマとしても「幼稚園と小学校の連携を視野に入れた教育課程の研究」が1999年度から加えられている。

保幼と小学校の連携が注目される背景には、急な段差の存在、低年齢化していく問題行動や授業の不成立（いわゆる小1プロブレム）、相互の共通理解の欠如などがあげられよう。本課題研究では、そのような現状を踏まえ、課題を明らかにして接続期をデザインするための視点を探りたい。

自由研究1

(共北11)

司会者 田上哲(九州大学)
山下政俊(島根大学)

- 13:30 ① 校内授業研究における新任教師の知識と思考の変容過程
—「認知的徒弟制」の概念を手がかりに—38
北田佳子(東京大学大学院)
- 14:00 ② 公立中学校における授業研究の取り組みと課題39
岸田裕一(鳥取市立河原中学校)
- 14:30 ③ 学校における実践研究の推進に資するリーダーシップグループ
—研究主任と他のリーダーの協力に着目して—40
木原俊行(大阪教育大学)
- 15:00 ④ 五大学共同研究と斎藤喜博
—授業研究のあり方をめぐって—41
狩野浩二(十文字学園女子大学)

自由研究2

(共北12)

司会者 寺岡英男(福井大学)
藤原幸男(琉球大学)

- 13:30 ① 教育実践における「困難」はいかに語りうるか
—教師たちの語りあう場に着目して—42
大日方真史(早稲田大学大学院)
- 14:00 ② 教室におけるテキスト解釈の多様性の解決に関する考察43
水野正朗(名古屋大学大学院)
- 14:30 ③ 教育実践における「反省的思考」の可能性
—D. ショーンの「反省的思考」論の批判的考察—44
○小川博久(聖徳大学)
○岩田遵子(東横学園女子短期大学)

自由研究3

(共北25)

司会者 藤原 顕(兵庫県立看護大学)
湯浅 恭正(大阪市立大学)

- 13:30 ① 「聴くことが苦手」な児童の発言に見る「聴く」行為
ーバフチンの「宛名」「言葉の内的対話性」を手がかりにー45
ー 柳 智 紀(東京大学大学院)
- 14:00 ② 授業におけるずれに関する一考察46
杉本 憲子(茨城大学)
- 14:30 ③ 通常学級におけるニーズを満たすのに特別な困難を抱える子どもの学習支援に
関する研究
ー「まなざし」論の批判的検討ー47
竹内 元(宮崎大学)
- 15:00 ④ 授業実践の様相ー解釈的研究
ー小学校中学年の授業を事例にー48
田代 裕一(西南学院大学)

自由研究4

(共北26)

司会者 庄井 良信(北海道教育大学)
西岡 加名恵(京都大学)

- 13:30 ① ウンベルト・エーコの余剰コード化理論にもとづいた授業場面の解釈への可能性...49
酒井 喜八郎(名古屋大学大学院)
- 14:00 ② 教師の同僚との合意形成力量に関する一考察
ージェンダー/セクシュアリティの教育を志向する教師のライフヒストリーからー...50
上 森 さくら(大阪市立大学大学院)
- 14:30 ③ ライフヒストリー・アプローチに基づく教師の意思決定に関する研究
ー教育方法学の視座からー51
吉永(岩崎)紀子(福島大学)
- 15:00 ④ 教師の専門性といじめ解決の方法52
麻生 信子(授業塾主宰)

9月29日(土) 13:30~15:40

自由研究5

(共北31)

司会者 中 田 基 昭 (東 京 大 学)
本 田 敏 明 (茨 城 大 学)

- 13:30 ① H.フロイデントールの教授原理「追発明」を支える人間観53
伊 藤 伸 也 (筑波大学大学院)
- 14:00 ② 後期(1898-1904年)におけるデュイ実験学校の取り組みについて54
森 久 佳 (愛知江南短期大学)
- 14:30 ③ 米国の「デザイン研究」における教育実践の理論化のための研究方法論55
山 口 悦 司 (宮 崎 大 学)
- 15:00 ④ ユビキタス映像記録視聴システムを活用した教育実習生の教育実践能力育成支援
の試み56
○平 山 勉 (名 城 大 学)
○後 藤 明 史 (名 古 屋 大 学)
○竹 内 英 人 (名 城 大 学)

自由研究6

(共北32)

司会者 浅 沼 茂 (東 京 学 芸 大 学)
鋒 山 泰 弘 (追 手 門 学 院 大 学)

- 13:30 ① 「田原本プラン」における学習評価に関する検討57
坂 井 誠 亮 (兵庫教育大学大学院)
- 14:00 ② 素質教育をめざす中国の教育評価改革の動向と課題58
項 純 (京 都 大 学 大 学 院)
- 14:30 ③ 児童の自己評価能力を育成するための教師の授業方策の構造59
廣 瀬 真 琴 (大阪市立大学大学院・研究員)
- 15:00 ④ パフォーマンス評価によるリフレクションと学び
ー客観的臨床能力試験 (Objective Structured Clinical Examination; OSCE)
リフレクション法の提案ー60
○平 山 朋 子 (藍 野 大 学)
松 下 佳 代 (京 都 大 学)

自由研究7

(共北33)

司会者 須田 勝彦(北海道大学)
山崎 雄介(群馬大学)

- 13:30 ① 「発達最近接領域」の評価方法に関する一考察61
 -算数におけるダイナミック・アセスメントの事例研究を手がかりに-
 平田 知美(広島大学大学院)
- 14:00 ② 算数教科書における図の使用62
 -日本とシンガポールの比較から-
 河野 麻沙美(東京大学大学院,
 日本学術振興会特別研究員)
- 14:30 ③ 小学校4年算数【折れ線グラフ】63
 -子どもの関数的考え方の道筋-
 黒澤 和 美(福島市立茂庭小学校)
- 15:00 ④ 小学校算数と中学校数学の“つなぎ”に関する研究(1)64
 -接続カリキュラムを構成する前に-
 井上 正 允(佐賀大学)

自由研究8

(共北34)

司会者 大槻 和夫(安田女子大学)
三上 勝夫(北海道教育大学)

- 13:30 ① 国語教育における児童の主体性に関する日中比較65
 -「文学の読み」をめぐるインタラクシオン-
 李 霞(京都大学大学院)
- 14:00 ② 日本における「教室ユーモア」研究の成果と課題66
 青砥 弘 幸(広島大学大学院)
- 14:30 ③ キー・コンピテンシーに基づく学習指導法の開発研究67
 -PISA型読解力育成の枠組みとその実際(1)-
 下田 好 行(国立教育政策研究所)
- 15:00 ④ 「すべての教育活動を通じて」「国語力の育成を」68
 -「読解力」習得授業の構想・国語科や理科の場合-
 ○高橋 ちあき(長崎県佐世保市立黒島小学校)
 ○安河内 義 己(前長崎大学)

自由研究9

(共北35)

司会者 清水 毅四郎(滋賀大学)
谷川 彰英(筑波大学)

- 13:30 ① 実態を探ることから始まる世代・分野・地域を結ぶ生涯教育のあり方について
ーコンピュータを活用した孫まで三代私の学びの活動からー69
○黒澤 若葉(孫まで三代私の学びサークル)
菊地 由紀子(孫まで三代私の学びサークル)
本屋 禎子(大阪女子短期大学)
- 14:00 ② スコットランドにおけるニューコミュニティースクール計画(New Community Schools Prospectus)の展開
ーパイロットプログラムの評価を中心にー70
富田 充保(札幌学院大学)
- 14:30 ③ どうすればマニュアルが切り出される以前の状況への関心を開けるのか
ーわたしの「学習援助論」の試みー71
西岡 けいこ(香川大学)
- 15:00 ④ 教科外教育における学習支援の方法
ー二つのイベント学習支援の試みー72
○島田 昌幸(群馬社会福祉大学)
○江原 京子(群馬社会福祉大学)

自由研究10

(共北36)

司会者 岸本 実(滋賀大学)
深澤 広明(広島大学)

- 13:30 ① ラジオドラマ制作による表現教育マネジメント研究
ー命をめぐる声のプロジェクトー73
青木 幸子(九州大学大学院)
- 14:00 ② 創造的思考プロセスにおいて表現力を育む学習環境と授業の改善に関する研究...74
○横島 三和子(兵庫教育大学)
岡田 雅樹(湊川短期大学)
- 14:30 ③ 参加型アクティビティの体系化に関する研究
ー演劇的技法を中心にー75
渡部 淳(日本大学)

司会者 穴戸健夫(同朋大学)
長瀬美子(大阪大谷大学)

- 13:30 ① 幼稚園教育実習指導における個に応じた指導の展開(1)
ー実習園・家庭との連携を生かしてー76
○安部 孝(埼玉純真短期大学)
神戸 洋子(埼玉純真短期大学)
草信和世(埼玉純真短期大学)
- 14:00 ② 教育環境としての大人の「立ち居振る舞い」を考える
ー幼児の茶道経験をめぐってー77
伊澤貞治(皐月幼稚園)
- 14:30 ③ 幼稚園課題における自然史(博物)の学習プログラムの実践と課題
ー特に21世紀の天動説, 地球の誕生と生命の創造, 太陽惑星の所在をめぐってー78
○尾崎 春人(学校法人尾崎学院銀嶺幼稚園)
羽田 哲(学校法人尾崎学院銀嶺幼稚園)
- 15:00 ④ 幼児の位相的認識の変化
ー異なる活動の中の論理の一貫性ー79
本屋禎子(大阪女子短期大学)

9月29日(土) 15:50~18:20

公開シンポジウム

PISA 型読解力を検討する

(百周年時計台記念館 1 階)

コーディネーター・司会者

池 野 範 男 (広 島 大 学)

田 中 耕 治 (京 都 大 学)

提案者

有 元 秀 文 (国立教育政策研究所) PISA 型読解力を育てるための課題と戦略 ……………80

岩 間 正 則 (横浜国立大学教育人間科学部附属横浜中学校)

PISA 型「読解力」を育成するために ……………82

秋 田 喜代美 (東 京 大 学) PISA 型読解力の再吟味

—子どもの読む心が育つために「型」は有効か— …84

指定討論者

難 波 博 孝 (広 島 大 学)

〈設定趣旨〉

PISA 型読解力の成績が、第1回調査(00年)から第2回調査(03年)にかけて大幅に順位(8位から14位)を落としたことから、文部科学省においても「読解力向上プログラム」が取り組まれている。そこでは、PISA 型読解力は「自らの目標を達成し、自らの知識と可能性を発達させ、効果的に社会に参加するために、書かれたテキストを理解し、利用し、熟考する能力」と規定されている。本シンポジウムでは、①従来の読解に関する学力と異なり、PISA 型読解力はどういう特徴を有するのか、②PISA 型読解力の実態をどのようにみるのか、③PISA 型読解力の実践的な取り組みはどのようになされているのか、④PISA 型読解力の課題や問題点はないのかについて、深めていきたいと思う。

インフォメーション

●会員総会

日 時 : 第1日(9月29日(土)) 11:40 ~ 12:30

会 場 : 4 共11

主な議題 : 会務報告

2006年度決算

2008年度予算案

次期大会校

昼食・休憩前ですが、ぜひとも多数ご参集ください。

●会員懇親会

日 時 : 第1日(9月29日(土)) 18:30 ~ 20:00

会 場 : カンフォーラ

会 費 : 4,000円

会員相互の親睦をはかるため、懇親会を開きます。多数の会員のみなさまの参加をお願いいたします。

●書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』の最新刊およびバックナンバーを、会員割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

また、本大会の『発表要旨集録』を別途希望される方には、1冊800円にて頒布いたします。

なお、『教育方法』最新刊(第36巻)は、本年度の学会費を納入された方には、受付の際にお渡しいたします。(大会以降に学会費を納入された方には、随時お手元に郵送いたしております。)

9月30日(日) 9:15~11:55

自由研究12

(共北11)

司会者 小野 擴 男 (岡山 大学)
木内 剛 (成 蹊 大学)

- 9:15 ① 戦後初期の奈良師範学校女子部附属小学校における授業研究87
大島 崇 (横浜国立大学大学院)
- 9:45 ② 峰地光重の郷土教育
—「生活」と「言葉」の関わりからの考察—88
出雲 俊江 (広島大学大学院)
- 10:15 ③ 明石女子師範学校附属小学校の教育方法(2)
—考えさせる手立てについて—89
伊藤 真治 (滋賀大学教育学部附属小学校)
- 10:45 ④ 及川理論を支えた訓導90
溝邊 和成 (甲南女子大学)
- 11:15 ⑤ 樋口勘次郎の話しことば教育
—飛鳥山遠足を手がかりとして—91
松本 裕司 (岩手県立大学)

自由研究13

(共北12)

司会者 川合 春路 (大阪樟蔭女子大学)
山本 順彦 (神戸親和女子大学)

- 9:15 ① 中学教師の授業実践における感情表出の分析
—生徒に対する教師の発話に伴う感情を対象として—92
木村 優 (東京大学大学院)
- 9:45 ② 「しょうゆで考える資本主義的生産の成立」の改訂プラン93
荒井 真一 (北海道大学大学院)
- 10:15 ③ 異校園種連携研究における研究主任の役割に関する研究94
小柳 和喜雄 (奈良教育大学)
- 10:45 ④ 子どもが自ら読みを深化・発達させる文学の学習
—詩『はくのいぬころ』(与田準一)の追求(小学3年)—95
石井 俊樹 (名古屋市立大森小学校)
- 11:15 ⑤ 高等学校における抽出生を手がかりにした授業研究の可能性と課題
—香川県立志度高等学校の取り組みを通して—96
田上 哲 (九州大学)

自由研究14

(共北25)

司会者 岩垣 攝(千葉大学)
園田 雅春(大阪教育大学)

- 9:15 ① 学級秩序の成立機序
—いわゆる「秩序問題」を手がかりに—97
早坂 淳(筑波大学大学院)
- 9:45 ② 小学校性教育における「生命誕生過程」の教育内容・教材・指導過程の検討(1)
—先行実践の動向分析—98
李 美錦(三重大学大学院)
- 10:15 ③ 小学校性教育における「生命誕生過程」の教育内容・教材・指導過程の検討(2)
—三重大学教育学部附属小学校における実験授業の自己分析—99
佐藤 年明(三重大学)
- 10:45 ④ 知識の「コト」化学力論へ2
—that 知の how 知への統合—100
小笠原 喜康(日本大学)
- 11:15 ⑤ 学級集団における友人関係についての現象学的考察
—我々共同体と他我性一般の観点から—101
○遠藤 野ゆり(東京大学・研究員)
○中田 基昭(東京大学)

自由研究15

(共北26)

司会者 白石 陽一(熊本大学)
山住 勝広(関西大学)

- 9:15 ① 協同の学びを構築するための授業開発
—議論への参加・不参加は知識構築にどのような影響を及ぼすのか—102
佐々原 正樹(広島大学大学院)
- 9:45 ② 中国における合作学習の理念と方法103
王 妍 奮(大阪市立大学大学院)
- 10:15 ③ 学習参加の形態とコミュニケーション
—学び方を自由に選択させた場合について—104
大杉 稔(滋賀県高島市立今津東小学校)
- 10:45 ④ 協同学習の理論と方法の理解を深める教師教育カリキュラム105
○竹中 真希子(大分大学)
大黒 孝文(神戸大学発達科学部附属住吉中学校)
- 11:15 ⑤ 「探究」型学習に関する一考察
—カナダ・オンタリオ州教育省教師用引き書“Focus on Inquiry”の分析
を通して—106
徳岡 慶一(京都教育大学)

自由研究16

(共北31)

司会者 奥平 康照(和光大学)
長澤 憲保(兵庫教育大学)

- 9:15 ① 1970年代の西ドイツにおける「カリキュラム」構成と伝統的な「レールプラン」
構成の手続きの比較107
樋口 裕介(広島大学大学院)
- 9:45 ② 相互作用システムとしての「教育的教授」論108
牛田 伸一(日本大学・ポストドクター)
- 10:15 ③ アルバーノ大学の一般教育カリキュラムの改革109
安藤 輝次(奈良教育大学)
- 10:45 ④ イングランドにおけるインスペクション(査察)の教員養成への影響
ーローハンプトン大学のモニタリングシステムとスタッフ研修会を中心にー.....110
○木原 成一郎(広島大学)
小柳 和喜雄(奈良教育大学)
岩田 昌太郎(琉球大学)

自由研究17

(共北32)

司会者 寺西 和子(千里金蘭大学)
松下 佳代(京都大学)

- 9:15 ① 知識構成論を授業方法論にスライドすることの問題性
ー中原忠男の社会構成的アプローチからー111
岩田 学(日本大学大学院)
- 9:45 ② 理科におけるコンテンツ・リテラシーとその評価に関する研究112
北川 剛司(広島大学大学院)
- 10:15 ③ 米国の中等学校改革実践における「真正の評価」論の位置
ーエッセンシャル・スクール連盟加盟校の改革実践を事例にー113
遠藤 貴広(京都大学大学院・研修員)
- 10:45 ④ 構成主義の考えに基づく授業・学習および評価に関する研究
ー素朴概念から OPP シートによる評価へー114
堀 哲夫(山梨大学)
- 11:15 ⑤ 大学における授業参観と事後検討の現状と課題115
○細川 和仁(秋田大学)
姫野 完治(秋田大学)

自由研究18

(共北33)

司会者 加納 幹雄(金沢大学)
柴田 義松(東京大学名誉教授)

- 9:15 ① 英語の比較表現の指導過程
ー実験授業による評価ー116
亘 理 陽一(北海道大学大学院)
- 9:45 ② 現代アメリカにおける入門期英語教育の一考察
ーM. プレスリーの「バランスのとれた指導」を中心にー117
赤 沢 真 世(京都大学大学院)
- 10:15 ③ ALTを活用した小学校の英語活動の現状と課題118
中 尾 かおり(西南学院大学大学院)
- 10:45 ④ ヴィゴツキアン・アプローチによるリテラシー論の展開と学校教育の課題119
黒 谷 和 志(北海道教育大学旭川校)
- 11:15 ⑤ 高等教育における「教養」の再構築にむけて
ー短大における「ことばのゼミ」の授業からー120
○森 美智代(鈴峯女子短期大学)
○磯 貝 淳一(鈴峯女子短期大学)

自由研究19

(共北34)

司会者 梅 田 修(滋賀大学)
藤 田 昌 士(日本大学・非常勤)

- 9:15 ① 道徳の授業における教師の発話と生徒の価値形成についての研究121
菊 地 真貴子(東北大学大学院)
- 9:45 ② 人権教育の指導方法に関する一考察
ー「歴史と私たち自身に向き合う(Facing History and Ourselves)」プログラムの分析を通してー122
原 口 友 輝(筑波大学大学院)
- 10:15 ③ アメリカにおける市民性教育実践に関する考察
ーFacing History And Ourselvesを事例としてー123
萩 森 直 子(東京大学大学院)
- 10:45 ④ フランスの市民性教育の実践に関する一考察
ーフレネ教育の視点からー124
宮 橋 小百合(四国学院大学)
- 11:15 ⑤ 授業を通じた生活指導のあり方に関する実証的研究125
○山 田 雅 彦(東京学芸大学)
○林 尚 示(東京学芸大学)

自由研究20

(共北35)

司会者 安彦忠彦(早稲田大学)
白石昌子(福島大学)

- 9:15 ① 教師の「語り」にみる学校音楽
—学校音楽カリキュラムの再構築—126
笹野恵理子(京都教育大学)
- 9:45 ② 1950年代後半から60年代にかけての音楽科の教材構成
—松本民之助の提唱した「音楽統合学習」の原理とその実際に着目して—127
菅道子(和歌山大学)
- 10:15 ③ 美術表現における学力についての一考察
—美術教育と学力・美術表現における学力とは?—128
上中良子(京都橘大学,
京都大学・研修員)
- 10:45 ④ ハンガリーにおける保幼小連携音楽カリキュラム
—就学前教育から小学校1年生への系統性に着目して—129
○三村真弓(広島大学)
吉富功修(広島大学)
北野幸子(福岡教育大学)
- 11:15 ⑤ 表現活動における教育方法のあり方
—あるミュージシャンによる歌づくりの授業を事例として—130
○阿部学(千葉大学大学院)
藤川大祐(千葉大学)

自由研究21

(共北36)

司会者 新井英靖(茨城大学)
梅原利夫(和光大学)

- 9:15 ① 学びにおける参加論の検討
—インクルージョン教育の視点から—131
今井理恵(大阪市立大学大学院)
- 9:45 ② 状況論的学習論の視点からの病弱教育の学び132
佐竹真(日本大学大学院)
- 10:15 ③ グラウマン (Graumann, O.) におけるインテグレーションの教授学133
吉田茂孝(高松短期大学)
- 10:45 ④ 重度重複障害児教育の授業構成論 (2)
—「からだ」領域における「主体的な学び」に着目して—134
尾添信枝(岡山県立岡山東養護学校)
- 11:15 ⑤ オープン・カレッジにおけるサポータ養成プログラムの開発135
岩永力男(大阪大学)

自由研究22

(共北38)

司会者 芦田 宏(兵庫県立大学)
諸岡 康哉(金沢大学)

- 9:15 ① 就学準備としての「学校ごっこ」
—小学校へつなげる保育実践の試み—136
岡花 折一郎(広島大学大学院)
- 9:45 ② 乳児の主体的かかわりを育む「保育行為」の構造
—S児の離乳食の介助場面の分析を通して—137
根津 明子(東横学園女子短期大学)
- 10:15 ③ 保育現場における癒しとしての音楽活用について138
立本 千寿子(大阪女子短期大学)
- 10:45 ④ 課題状況設定が幼児の空間表象に与える影響
—「三つ山問題」における自己中心的反応をめぐって—139
斎藤 裕(県立新潟女子短期大学)
- 11:15 ⑤ 絵本による幼児の天体認識の変容に関する基礎的研究
—月に対する認識を中心に—140
○小谷 卓也(大阪大谷大学)
○長瀬 美子(大阪大谷大学)

自由研究23

(共北37)

司会者 中野 和光(広島大学)
西岡 けいこ(香川大学)

- 9:15 ① 保育実習に対する「評価」の意味について
—2回の実習の学生による自己評価と現場評価の比較から—141
佐野 美奈(大阪樟蔭女子大学)
- 9:45 ② 幼稚園教育実習指導における個々の課題設定と展開(1)142
○神戸 洋子(埼玉純真短期大学)
安部 孝(埼玉純真短期大学)
草信 和世(埼玉純真短期大学)
- 10:15 ③ 幼稚園教育実習指導における個に応じた指導の展開(2)
—聴覚障害を持った学生の事例を中心として—143
○草信 和世(埼玉純真短期大学)
安部 孝(埼玉純真短期大学)
神戸 洋子(埼玉純真短期大学)
- 10:45 ④ 保育士養成機関における保育実習(I)の自己紹介の仕方
—学生の準備した手づくり教材について考える—144
寺島 明子(松本短期大学)
- 11:15 ⑤ 19世紀末期のアメリカにおけるベスタロッツ・フレーベル・ハウスの受容
—アメリカの幼稚園教師が注目したシュラーダー=ブライマンの保育実践—145
橋川 喜美代(鳴門教育大学)

課題研究Ⅲ

学習集団と生活集団を問い直す

(4共11)

コーディネーター

白井嘉一(福島大学)

豊田ひさき(中部大学)

司会者

白井嘉一(福島大学)

碓井岑夫(四天王寺国際仏教大学)

提案者

久田敏彦(大阪教育大学) 学級を基礎にした「共」の世界の構築146

小林信次(愛知県立大学・非常勤, 愛知教育大学・非常勤)・平野博通(名古屋市立東陵中学校)
学習集団と国語の授業147

豊田ひさき(中部大学) 学習集団づくりの実践史148

〈設定趣旨〉

2006年12月実施の「改正教育基本法」の中では新たに「公共の精神」が位置づけられ改正過程において大きな問題となっていたが、この「公共の精神」は「学級」における「公共性」をどう実現していくのかという課題とも関連させて今後もその内実とその在り方について明らかにしていく課題が残されている。

一方、「学級」は、学校での教育実践の組織的基盤として自明視されながらも、制度としては解体されないまでも編成行為のレベルでは学習集団と生活集団の分離、習熟度別学習の導入、生活の共同体主義的な再編などが政策的に求められ、「学級」は、もはや安定的ではない事態を迎えている。

本課題研究では、かかる学習集団と生活集団の現状と問題点を踏まえ、さらに上記の「学級」における「公共性」の実現の課題も視野に入れて、「学級」における「学習集団」と「生活集団」の在り方を改めて問題としつつ、両者の在り方について歴史的視野も踏まえて明らかにしていきたい。

課題研究Ⅳ

教育方法学の立場から「いじめ」問題とどう取り組むか

(4共21)

コーディネーター・司会者

小川 博久 (聖徳大学)

片上 宗二 (安田女子大学)

提案者

岩田 遼子 (東横学園女子短期大学) 学力差を超えた人間関係づくり

—「いじめ」機制を抑制する学級経営— ……150

船越 勝 (和歌山大学) いじめ問題と学び ……152

三橋 謙一郎 (徳島文理大学) 「いじめ」の克服と学校教育

—担任教師による教育実践の立場からのアプローチ
を中心として— ……154

〈設定趣旨〉

これまで、「いじめ」については、様々な人によって論じられてきた。その扱いは、主として「人間関係」の問題であり、「子ども集団」のあり方を問題として扱われたものであった(菅野盾樹、森田孝司)。それは、それなりに妥当なものであった。そこで、この「いじめ」にどう取り組むかと言えば、大人、特に親や教師が、そうして「いじめ」を発生させる子どもたちの日常の実態に目を向けて、それに対処する働きかけを未然にしなければならないということであり、そこでは、生活指導やカウンセリングの課題としてとりあげられることが多かったのである。この扱い方も、それなりの妥当性を持つものである。

しかし、ここでは、もう少し広い視野から、この問題を学校教育全体と取り組まざるを得ない教師、特に学級担任制のもとで教授活動に責任を持ち、その基盤としての自分のクラス経営にも責任を持つ教師の立場で、この「いじめ」問題を考えてみたいのである。この立場を言い替えれば、教育方法学の立場から「いじめ」問題を考えるとしておきたい。なぜなら、教授活動のあり方を抜きにして、教育方法学は成り立たないからである。

9月30日(日) 15:20~16:50

ラウンドテーブル

戦後授業研究の歩みを語る

— 柴田義松先生を囲んで —

(共北3D)

企 画

大会実行委員会

聞き手

川 地 亜弥子 (大阪電気通信大学)

樋 口 とみ子 (京 都 教 育 大 学)

〈設定趣旨〉

日本における「授業研究」が諸外国において着目される中で、その「授業研究」を中心において活動してきた本学会の歴史的な意義を今一度確認して、それを新しい世代に伝えていく必要性が増している。今回の企画は、本学会の前代表理事柴田先生にご登壇いただき、先生の研究の歩みと重ねていただきながら、「授業研究」の成果や課題についてフランクに語っていただこうと考えた。どうか皆様ふるってご参加ください。

9月30日(日) 15:20~16:50

ワークショップ

イギリスの Drama in Education の教育的意義

(共北3C)

企画・ファシリテーター

小林 由利子 (東横学園女子短期大学)

司 会

小笠原 喜 康 (日 本 大 学)

〈設定趣旨〉

近年、イギリスの DIE (Drama in Education) あるいはプロセス・ドラマが、イギリスの実践家やイギリスで学んだ研究者や俳優たちによって、日本に紹介されてきている。また、学校において、戦後に始まった学校に劇団を招聘して演劇作品を鑑賞したり、近くの劇場に作品を見に行ったりする「演劇教室」という演劇鑑賞教育より、実際に俳優が生徒たちと一緒にドラマのワークショップをする活動が行われるようになってきている。さらに、教師がドラマや演劇を学習媒体として用いる教育方法も以前より盛んに取り入れられるようになってきている。

そこで、今回のワークショップにおいて、実際にイギリスの Jonothan Neelands の方法論に基づくドラマ活動である「フレデリックのドラマ」を経験することを通して、日本の教育における DIE の教育的意義について考え、日本にどのように導入したらいいかについて検討する。

〈内容〉

- (1) ウォーミング・アップ
- (2) DIE の活動例: 「Frederic のドラマ」
- (3) ディスカッション

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法9.	現代訓育理論の探究	1977	(2,205円)
教育方法13.	いま授業で何が問われているか	1983	(2,472円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1985	(2,940円)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1987	(2,520円)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1988	(3,045円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1989	(2,039円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1990	(1,794円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1991	(1,794円)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1993	(1,896円)
教育方法23.	新しい学力観と教育実践	1994	(1,896円)
教育方法25.	戦後50年、いま学校を問い直す	1996	(1,998円)
教育方法26.	新しい学校像と教育改革	1997	(1,890円)
教育方法27.	新しい学校・学級づくりと授業改革	1998	(2,058円)
教育方法28.	教育課程・方法の改革		
	一新学習指導要領の教育方法学的検討一	1999	(1,953円) (価格は税込)

〒170-0005

東京都豊島区南大塚2-39-5

明治図書

TEL(編)03-3946-3151・3152

TEL(営)048-256-1175

【教育方法】は、大会当日、会場にて大会割引価格にて販売いたします。

この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。

【教育方法29】より、図書文化から出版されることになりました。

教育方法29.	総合的学習と教科の基礎・基本	2000	(1,890円)
教育方法30.	学力観の再検討と授業改革	2001	(1,890円)
教育方法31.	子ども参加の学校と授業改革	2002	(1,995円)
教育方法32.	新しい学びと知の創造	2003	(1,995円)
教育方法33.	確かな学力と指導法の探求	2004	(1,995円)
教育方法34.	現代の教育課程改革と授業論の探求	2005	(1,995円)
教育方法35.	学習意欲を高める授業		
	一どのような学力を形成するか一	2006	(2,100円) (価格は税込)

最新刊・教育方法36.

『リテラシーと授業改善』

〈内 容〉

- I. リテラシー問題をどうとらえるか
- II. 教科のリテラシーと授業改善
- III. 批判的リテラシーと授業改善
- IV. 教育方法学の研究動向

〒112-0012

東京都文京区大塚1-4-5

図書文化

TEL. 03-3943-2516